

令和2年度 施政方針

鱒ヶ沢町長 平 田 衛

はじめに

本日、ここに、令和2年鱒ヶ沢町議会第1回定例会を招集致しましたところ、議員各位には応招いただき、感謝申し上げます。

それでは、本議会の開催にあたり、令和2年度の施政について、その一端を申し述べさせていただきます。

昨年は、令和という新しい時代を迎え、日本国にとって大きな節目の年となりましたが、鱒ヶ沢町にとりましても、節目となる町制施行130周年を迎え、由緒ある歴史と文化を内外に発信することができたところでもあります。

また、昨年は、昭和58年に着工された七里長浜港が、「津軽港」と港名が変わり、津軽港元年の年として再スタートを切る一方、役場新庁舎建設事業が着工となるなど記念すべき年となりました。

さて、令和2年は、大浦光信公が種里の地に入部して以来530年を迎えることから、津軽藩発祥の地としての歴史と文化を内外にプロモーションし、鱒ヶ沢町の名を、また、魅力を大いに発信してまいりたいと思います。

まちづくり目標(指針)

令和2年度におきましても、就任当初より掲げている3つの目標の実現に向け努力してまいります。

まず、1つ目の目標である「誇りと自信を持てるまち、自慢できるまち」については、鱒ヶ沢町に住む人々が古い歴史文化、世界自然遺産、日本遺産など、他に誇るべき「宝」を有しているこの町に愛着を持ち、「この町は良い町だ」と誇りと自信を持つことであり、そういう人々をつくっていくことでもあります。

まちづくりの根幹をなすのは人であり、まさに、人がまちづくりの原動力になると思っております。

2つ目の目標である「たくさんの人々が訪れたいと思う魅力的なまち」は、交流人口を増やすことでもあります。

歴史文化、自然景観、農林水産物、食など、鱒ヶ沢町の優れた資源を十二分に生かし、内外に情報発信しながら魅力的なまちを目指してまいります。

そして、3つ目の目標は「この町に住んでみたいと思う生活しやすいまち」であります。

働く場の確保をはじめ、医療、介護、福祉、子育て、生活環境の整備、教育文化環境の整備など、人々が安心して生活できるまちを目指してまいります。

タウンプロモーション

今の時代は、自治体間による競争の時代です。

令和2年度においても、まちづくりの目標とする、誇りと愛着をもち、人々が生き生きと暮らすまち、多くの資源に恵まれた魅力的なまち、そして、安心して生活できるまち、こうした鱒ヶ沢町の魅力、良さを丸ごと内外に売り込み、町へヒト・モノ・カネを呼び込む、そして、地域を活性化させる活動、いわゆるタウンプロモーションをまちづくりの戦略として展開してまいります。

それでは、主要な施策について申し上げます。

予算の概要

はじめに、予算の概要について申し上げます。

令和2年度の国の一般会計予算案は、予算規模102兆6,580億円、対前年比1.2%増と、過去最大規模であった令和元年度をさらに上回っております。

防災・減災・国土強靱化のための緊急対策の継続、少子高齢化対策、また、一億総活躍社会の実現に取り組み、「人づくり改革」及び「働き方改革」を推進しつつ、全世代型社会保障の構築に向け持続可能な改革を進めることなどが打ち出されております。

令和2年度地方財政計画によると、地方交付税総額については、4千億円増の16兆6千億円を確保される見込みであります。

歳入においては、国や県の補助金を積極的に活用するとともに、ふるさと納税の寄附金を原資とする未来応援基金を、地域振興の財源として活用してまいります。

一方、歳出においては、前年度から継続する、役場庁舎建設関連事業費の増大などにより、令和2年度一般会計当初予算は、前年度比26.5%、18億4千7百万円の増となる、88億2千7百万円の予算を編成したところでありますが、事業実施に当たっては、事務事業の合理化、経費の縮減を常に念頭に入れ予算執行してまいります。

産業経済の振興

次に、産業経済の振興について申し上げます。

はじめに、農林水産業の振興について申し上げます。

農林業を取り巻く環境は、過疎化や従事者の高齢化が年々深刻な問題となっており、後継者不足や集落機能の低下など、厳しい状況となっております。

このため、生産基盤の維持強化、経営所得安定対策、担い手育成や農地の集積など国、県の支援策を有効活用し、農林業所得の向上、経営の安定を図ってまいります。

農業経営の安定につながる、水田を活用した新規作物の導入につきましては、高収益作物への誘導、また、果樹農家の安定生産支援についても、継続してまいります。

農作物の有害鳥獣対策につきましては、昨年度、導入致しました大型捕獲ワナとICTを活用した実証実験を進めてまいります。

また、電気柵設置助成、捕獲従事者の育成助成を継続実施し、駆除体制の強化と被害防止に努めてまいります。

農道の整備につきましては、維持修繕事業を継続してまいります。

一方、水産業を取り巻く環境も、従事者の高齢化や後継者不足などに加え、漁獲量、漁獲高の低迷が続き厳しさを増しております。

現在、組合運営の基盤強化を図ることを目的に、鱒ヶ沢漁業協同組合と赤石水産漁業協同組合との間で合併協議が進んでいることから、合併実現と組合経営安定に対し今後も支援してまいります。

また、海面においては、「サケ」の回帰率向上に向けた取組の継続、内水面漁業においては、「アユ」、「イトウ」の安定生産、販売促進に努めてまいります。

一方、将来的な生産性向上のための基盤整備、ブランド化推進による売れる産品づくり、販路の拡大策などの調査事業を、地方創生推進交付金を活用して中長期的視点で実施してまいります。

また、令和2年度も引き続き、「ヒラメ」、「肉」、「スイーツ」などの「食のイベント」を通して、地元住民の購買ニーズや観光客のニーズなどをマーケティング調査するとともに、併せて販路拡大を目的に生産加工、商品開発、販売、流通などの可能性について検討してまいります。

また、ここ数年来、ふるさと納税を通じて、鰯ヶ沢町の産品は、全国から高い評価を受け、平成27年度以降、4年連続で寄付額が大きく増えております。

ふるさと納税制度を通じて鰯ヶ沢町を知り、旅行で訪れた方もおられると聞いておりますので、今後も町の魅力発信のため、ファンづくりのため、ふるさと納税制度を大いに活用してまいります。

商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

商工業の振興につきましては、創業支援や空き店舗対策に係る補助金の支援、各種融資制度の保証料補助や利子補給等の事業を継続して、中小企業の経営安定を図ってまいります。

また、令和2年度においても、地域経済の活性化につきましては、町商工会が実施する、「10%のプレミアム付き商品券」発行への支援を引き続き実施し、町内での消費喚起に努めてまいります。

次に、キャッシュレス化につきましては、昨年5月に設置致しました、キャッシュレス推進協議会を中心に、国の導入推進事業等を活用しながら、町内の商工業者の方々に対し普及を図り、インバウンド客を含めた外貨獲得に努めてまいります。

また、地域経済活性化を推進していくため、町内商工業者との連携を強化し、さらには金融機関との連携、また、情報、技術、知識、人材資源を有する弘前大学や青森公立大学との産学官連携を推進してまいります。

観光の振興

次に、観光の振興について申し上げます。

観光の振興につきましては、優れた自然や歴史文化、景勝地のほか、山・川・海の幸を生かした郷土料理や、25万食到達間近のヒラメのヅケ丼をはじめとする地域グルメ等、豊富な資源を有する当町の魅力について、町観光協会や宿泊施設、飲食店等の関係者との連携強化を図り、内外へ強力に発信してまいります。

また、近年、町内のホテル等の努力により、台湾を中心としたインバウンド客の入込み客は、年間延べ2万1千人、宿泊客は年間延べ1万3千人と大幅に増え、町の観光振興に大いに寄与しております。

令和2年度もインバウンド客の誘客に努めるほか、「体験型コンテンツ」の充実に努めてまいります。

また、令和2年度、津軽圏域の観光に関する取組のネットワーク化を目指し、津軽圏域DMOが設立されることから、町では津軽圏域14市町村とともに参加することとしております。

高速交通体系の整備・津軽港の利活用

次に、地域の産業経済活性化を図る上で重要な役割を果たす、高速交通体系の整備と「津軽港」の利活用について申し上げます。

まず、津軽自動車道については、残区間である柏～浮田間12.3キロについて、国、県へ積極的に足を運び、早期開通に向けて強力に要望してまいります。

また、日本海に沿って北上し能代市まで伸びている日本海沿岸道路と、津軽自動車道を結ぶ西津軽能代沿岸道路の計画路線格上げと早期着工についても、引き続き国、県へ積極的に要望してまいります。

一方、七里長浜港から港名が変更となった津軽港については、津軽というネームバリューを最大限に生かしたポートセールスに取り組みながら、県、弘前市をはじめ関係14市町村が一体となって津軽地域の産業、経済活性化のための港を目指してまいります。

また、本県日本海側での洋上風力発電の事業化については、将来的なエネルギー供給と地域振興両面から様々な可能性が議論されております。

町と致しましては、近隣の自治体、漁業協同組合とともに議論の俎上に載せるため、まずは国の有望な区域に選定され、協議会が設置されるよう要望活動を行うとともに、引き続き調査検討してまいります。

保健・福祉・医療対策等の充実

保健、福祉、医療対策等の充実について申し上げます。

「健康づくり」をテーマに掲げる当町においては、大きな課題である、町民の平均寿命、健康寿命を延ばすため、あじがさわ健康宣言の精神に基づき、健康意識の向上と生活習慣の改善に引き続き積極的に取り組んでまいります。

令和2年度においては、健康づくりリーダーの育成、運動教室や栄養教室の開催、親子プロジェクトを継続するとともに子ども虫歯予防と致しまして、幼児のフッ素塗布、小・中学生のフッ素洗口を実施し、「歯の健康」も推進してまいります。

また、町の総合健診、各種がん検診の受診率向上に努め、病気の予防、早期発見、早期治療、健康長寿の実現につなげてまいります。

母子支援センター事業につきましては、令和2年度においても、妊産婦の産前産後ケア、ママサポート事業など母子に寄り

添った助産師による訪問や相談、乳児紙おむつ支給を行うなど、近隣自治体にはない、きめ細やかな、「あじがさわならでは」の母子支援事業・住民サービスの向上を実施してまいります。

高齢者福祉につきましては、いつまでも住み慣れた地域で、安心して元気に自立した生活ができるよう、町社会福祉協議会など関係機関との連携強化を図りながら、地域福祉の充実に努めてまいります。

また、人生100年時代の到来と言われ、国では、高齢化が進む他の国のさきがけとなるような社会づくりを目指しております。

現在、鱒ヶ沢町の高齢化率は約40%、65歳以上の方は約4千人に及んでおります。

今後はこうした皆さんが、心身ともに健康、かつ生きがいを感じて生活、活躍できる地域社会を目指し、そのプロジェクト化に取り組んでまいります。

一方、高齢化等に伴い、経済的な事情や家庭・健康上の悩みなど、複合的な課題を抱える方が増加していることから、継続事業である、「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」や「地域力強化推進事業」を推進し、総合的な支援体制の機能向上を目指してまいります。

児童福祉につきましては、これまで同様、中学生までの医療費を無料にする事業を継続し、子育て世帯を支援してまいります。

保育所・こども園につきましては、国による幼児教育・保育の無償化が令和元年度から実施されており、令和2年度においても保護者の皆さんと多様な情報を共有し、業務の正確を期してまいります。

鱒ヶ沢病院につきましては、令和2年度から、病床の一部を地域包括ケア病床として稼働し、健全な病院経営と地域医療の確保充実に努めてまいります。

生活環境の整備、充実

次に、生活環境の整備、充実について申し上げます。

まず、町道につきましては、「町道鳴戸ヶ丘線」と赤石溪流線の2路線を国土強靱化のための緊急対策事業として、重点的に整備してまいります。

また、赤石上通り線及び目内崎開源橋線の改良事業や長平中央線防雪柵の設置事業、「赤沢橋」の橋梁改修についても、国の社会資本整備総合交付金事業を活用し安全で快適な道路、交通確保に向け、計画的に実施してまいります。

町営住宅につきましては、建物の老朽化の調査と長寿命化計画を策定し、今後の修繕、更新を計画的に実施してまいります。

水道事業につきましては、衛生的な水の安定供給を図るため、水道施設等耐震化推進事業として、令和2年度も引き続き芦菴地区の配水管布設替えを実施してまいります。

また、公共下水道については、整備計画に基づき新町、釣町、浜町地区及び舞戸地区の整備を実施してまいります。

地域公共交通としての、コミュニティバス「あじバス」については、初年度約2万2千人であった利用者が今年度は3万人を超える見通しとなっており、年々利用者が増加しているほか、昨年から実施された運転免許自主返納者の利用者も、延べ千人を超え高齢者の貴重な足となっております。

あじバスについては、これまでの3か年に及ぶ運行実績を分析調査し、より利用しやすく日常生活に密着したバス運行について検討してまいります。

また、実証的に行った鱒ヶ沢地区、舞戸地区の巡回バス事業については、令和2年度はダイヤを改正して実証運行し、利用者ニーズの調査を行ってまいります。

次に、防災・消防行政の充実について申し上げます。

近年は、地球温暖化などの影響で、台風や土砂災害などの予想を超える自然災害が全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしております。

このため、あらゆる災害に迅速に対応できる体制づくりと体制強化に努めてまいります。

令和2年度においては、「鯨ヶ沢町防災情報システム整備事業」を実施し、現在の防災行政無線設備に代わる新たなデジタルシステムを構築してまいります。

また、津波・河川氾濫・土砂・火山などハザードマップの更新、地域住民との連携協力による防災訓練の実施、自衛隊、海上保安部、警察、消防等との連携体制も強化するなど、防災力の強化と安心安全なまちづくりに努めてまいります。

また、急傾斜地対策事業につきましては、南浮田地区及び北浮田地区の国庫事業への経費負担により、土砂災害の危険から住民の安全を守る対策を進めてまいります。

また、県による中村川広域河川改修事業の推進及び堆積土砂の浚渫についても、県に対する要望に努め、洪水による災害発生防止を目指してまいります。

消防行政につきましては、救急、災害、事故等に的確かつ迅速に対処するため、消防署員及び消防団員の体制強化と、より一層の資質向上、大規模災害の緊急消防に備えてまいります。

教育文化環境の整備

次に、教育文化環境の整備について申し上げます。

教育につきましては、町教育委員会が掲げる教育基本方針に基づき、「郷土に誇りをもち、多様性を尊重し、創造力豊かで新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を進めてまいります。

令和2年度の学校教育につきましては、ICT教育のシステムの構築と環境整備の充実を図るとともに、教員の技術向上を進め、子どもたちの学力向上につなげてまいります。

また、子どもたちの健やかな成長のために、引き続き心のケア相談員、特別支援教育支援員を配置するとともに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを派遣してまいります。

令和2年度より、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語が全面実施されることに伴い、小学校からの外国語教育の一層の充実を図るため、引き続き外国語指導助手を小中学校に配置してまいります。

令和2年度、町では、町内の2つの小学校と1つの中学校に子どもたちを育てる取組として、学校運営協議会の設置、いわゆる「コミュニティ・スクール」を導入してまいります。

学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指し、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進してまいります。

一方、社会教育につきましては、まちづくりの根幹をなす人材の育成、また、鱒ヶ沢町を愛する人材を育成していくため、社会教育推進ディレクターを令和2年度も引き続き配置し、取り組んでまいります。

また、令和新時代の節目とも言える光信公入部530年を機に津軽藩ゆかりの自治体首長に当町へお集まりいただき、歴史と文化がつないだ縁をPRするほか、さまざまな形で光信公の歴史を紹介してまいります。

また、友好協定3年目を迎える岩手県久慈市とは、観光、物産をはじめとする相互の交流につとめてまいります。

一方、人材育成の一環として、今後の地域産業を支える若い世代を育てるための鱒ヶ沢高等学校SBP（ソーシャル・ビジ

ネス・プロジェクト)事業、また、町と楽天、青森銀行連携事業として、I T社会に対応した鱒ヶ沢高等学校E Cみらい塾の開講などについても継続的に支援してまいります。

さらに、令和2年度も引き続き、地域の高校である鱒ヶ沢高等学校が町内外から志望者が増える魅力的な高校として、さらには、これからの社会を担う多くの優秀な人材を輩出する高校となるよう積極的に支援してまいります。

役場新庁舎移転計画

次に役場庁舎建設事業について申し上げます。

新庁舎につきましては、昨年10月に着工し、令和2年度内の完成を目指し工事を進めてまいります。

令和3年度には、窓口業務をはじめ、通常の業務がスムーズにスタートができますように、令和2年度は課の統合など機構改革を実施するとともに、スピーディーで正確、効率的な業務遂行ができるよう、新庁舎開始までのあらゆる状況を想定しながら、準備をしてまいります。

結 び

人口減少、少子高齢と、我々はかつて経験したことのない時代に入りました。

また、東京一極集中はとどまることなく、地方においては、地域の存続も危惧されるなかで、我々は新たなまちづくりに迫られております。

解決しなければならない課題は山積しておりますが、まちづくりは決して一人でできるものではなく、町民の皆さんが大同団結し、ともに知恵を絞り、ともに汗をかき取り組んでいかなければならないと思っております。

令和2年度におきましても、鱒ヶ沢ならではの魅力あふれるまちづくりのため、職員一丸となって誠心誠意努力してまいります。

どうか、議員各位並びに町民の皆様におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和2年度の施政方針といたします。

令和2年2月20日 鱒ヶ沢町長 平 田 衛